

高齢者に呼びかけることなく「一億総活躍」担当大臣が登場

2015年10月7日の内閣改造で、安倍総理は「一億総活躍」をとなえて担当大臣を登場させた。アベノミクスの先行きを懸念してとされるが、しかし残念ながらオールジャパン経済社会にするために特に3400万人の高齢者層に参加を呼びかけることはないようだ。目標とする「新・三本の矢」も方向がばらばらで「無的放矢」といわざるをえない。

「一億総活躍」の時代へ

内閣改造後の安倍首相記者会見

2015年10月7日

本日、内閣を改造いたしました。この内閣は、「未来へ挑戦する内閣」であります。

少子高齢化に歯止めをかけ、50年後も人口1億人を維持する。そして、高齢者も若者も、女性も男性も、難病や障害のある方も、誰もが今よりももう一歩前へ踏み出すことができる社会をつくる。一億総活躍という輝かしい未来を切り開くため、安倍内閣は新しい挑戦を始めます。

戦後最大のGDP600兆円、希望出生率1.8、そして、介護離職ゼロ。この3つの大きな目標に向かって、新しい三本の矢を力強く放つ。そのための強固な体制を整えることができたと考えております。

加藤担当大臣の就任時記者会見(抜粋) (平成27年10月7日)

一億総活躍につきましては、先ほど総理の会見でもございましたけれども、総理は、少子高齢化等の日本の構造的な問題に真正面から挑み、日本の未来を切り開く新たな国づくりとして「一億総活躍社会」を目指す、その決意を表明されました。担当大臣として、その実現のために、総理が掲げられた、「希望を生み出す強い経済」、「夢を紡ぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」、との目標に向けて、多岐にわたる政策を総動員し、「新・三本の矢」として全力で放つべく、関係大臣とも協力・連携をして、全力で取り組んでまいりたいと思います。



一億総活躍推進室看板掛け及び訓示

首相官邸 平成27年10月15日

写真: 看板を掛ける安倍総理

平成27年10月15日、安倍総理は、一億総活躍推進室の看板を掛け、職員への訓示を行いました。



「3年前、安倍政権はスタートいたしまして、『三本の矢』を掲げてデフレ脱却、そして、経済を力強くスタートさせていく、『三本の矢』を力強く放ったわけであります。その結果現在、デフレではないという状況を作り出す、我々は再び力強く成長していくことができるという、自信を取り戻しつつあるわけでありませ

す。そして、我々のアベノミクスはいよいよ第2ステージに入るわけであります。この成果と果実をしっかりと生かしていかなければいけませんし、更にパワーアップしていく必要もあります。

我々は『一億総活躍社会』という大きな目標を掲げました。少子高齢化、この現実にとしっかりと目を据えながら、この現実から逃れずに、この現実を克服していかなければ、日本の輝ける未来を描いていくことはできないわけでありませ

す。若者も高齢者も、男性も女性も、困難な問題を抱えている人も、また難病や障害を持った方々も、みんなにとってチャンスのある社会をつくっていく。みんながもう一歩前に行くことができるような、そういう日本に変えていかなければならないわけでありませ

す。そのために今日から、この『一億総活躍推進室』がスタートしたわけでございます。皆様方には、その一員としての未来を創っていくとの自覚を持って、省庁の縦割りを排し、加藤大臣の下に一丸となって、正に未来に向けてのチームジャパンとして頑張っ

ていただきたいと思います。名目GDP600兆円も、希望出生率1.8の実現も、そしてまた、介護離職ゼロも、そう簡単な目標ではありません。しかし、今目標を掲げなければならぬわけでありませ

すし、目標を掲げていくことによって、新たなアイデアも出てくるわけでありませ

すし、新たな対策も生まれてくるわけでありませ

す。どうか皆様方には、知恵と汗を絞っていただきたいと思います。」